



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～

☆12月の目標

安全の「あ」
健康は自分・・・
※体力づくりをしよう
※手洗い、うがいを
しよう

☆配布物のお知らせ
1 学校便り 39号

☆今後の主な予定
・12月17日 2学期終業日
・1月 7日 3学期始業日
・1月21日 避難訓練
・1月28日 幼稚部節分集会

☆「自動車をつくる工場」
特別授業レポート

五年一組 杉原 広大

前回の特別授業の中でスバルの日野先生から伺った自動車をつくる工程についてまとめてみました。まずプレス機を使い平らにして作りたい形にします。次に溶接ロボットでまず最初にフロアを作り、次に横の部分を作ります。特別なライトで検査し、続いて塗装します。特別な機械を使い10年以上たってもさびがでないように塗装します。次にエンジン工場でエンジンを車に装着します。車のガソリンをエンジンに入れるとなんと1800kgの重さになるそうです。次にクリップなどを使って接着します。そして最後にタイヤシートを組み立てて自動車は完成しますが、ここで検査を受けなければなりません。検査の箇所は2600カ所もあります。一番驚いたことは、一カ所でもNG箇所があるとまた作り直さなければいけないことです。僕は自動車会社の人たちがとてもがんばっておられるのだなあと思いました。



☆高等部弁論大会
最優秀賞 「武士道」 三年 神谷 地洋

皆さんは新渡戸稲造が誰か知っているだろうか？今の樋口一葉の前の旧五千円札の肖像として採用された人だ。彼は教育者、思想家でありながらアメリカやドイツの大学で農業経済学、農学を学んだ研究者でもあった。彼は留学中にベルギーの法学者ラブレールに「日本の学校は宗教教育なしでどのような道徳を教えているのですか。」と聞かれ、その質問に明確に答えることができなかった。彼はその答えを探るべく10年かけて研究し、1900年に『Bushido: The Soul of Japan』を書き上げた。私はその現代語訳版を読み、武士道の精神こそ、急速な国際化に日本人らしさを見失いつつある現代人に足りないものだと考えた。そこで、日本人らしさなどは何かについて考えて欲しいため、武の基本になる七徳、「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義」を順に説明しようと思う。

義は正義の義。不正行為を忌み嫌う、死をも恐れない正義を遂行する精神のことである。「正々堂々」「真つ向勝負」「フェアプレー」などの精神といたるところである。戦国時代の武将同士の一騎打ちはまさにこの義を象徴しているだろう。

仁は仁の時代でも、王や身分の高いものに必要不可欠とされている。そして武士の情けが、力あるものの美しい慈悲だと言われたように、強き者は弱き者にも手を差し伸べることのできる優しさが必要なのである。

礼は相手を敬う気持ちを目に見える形で表現すること。例えば、茶道などでのきめ細やかな礼儀作法はその行動一つ一つに無駄がなく美しい。その無駄のない洗練された状態こそが最高の状態だというのだ。そして思いやり、謙虚などの仁を行動にして相手に伝えると、礼は最高の状態になり愛に近づくのだ。

誠。嘘をつくということは罪というよりも、「弱い」「臆病だ」とされた。そしてこの弱い、臆病だということには次に話す武士の「名誉」を傷つけ、武士にとって一番の屈辱であった。武士に二言はないというように武士の約束に証文は必要なく、口述ですむほど武士は誠実だったと言えるだろう。

名誉は幼児の頃から教え込まれる士分ならではの徳である。体面を汚すな、名が廃れる、といった言葉で小さな頃から武士としての名誉を重んじさせその名誉はプライドとなって武士を精神的に支えるものとなった。忠義は世界のあらゆる階級の中でも武士にしか見られない特殊な徳である。忠義とは主君に対する絶対的な従順のことだが、武士は決して主君の奴隷ではなかった。なぜなら忠義は強制的なものではなく、自発的なものであったからで、武士は己の義に合った主君に対してのみ忠義を誓ったからである。なので、もしも主君との考えが食い違ったら、武士は命をかけて、自らの義に従って反論することができるのだ。

これら全ての徳が当てはまる武士は当時でも、ほんのひと握りしかいなかったそうだが、七つの徳の中でも義がトップに置かれ、正しいことを行う「義」を守るということは、打算や損得から離れていくことを意味するからだ。しかし、私はその難しい「義」を遂行しようとする努力や姿勢が現代人に必要なのだと思う。武士道を訳した岬龍一郎もあとがきの解説で「具体的な理想をもつと人の生き方は変わる」とのべている。

☆優秀賞

「差別という名の影を持つ世界」一年 神谷 育寿

私はアメリカに住む日本人として、自然なことなのか、差別について考えさせられることが多々あります。その発端は以外にも他人に浴びせられた侮辱等よりも、大抵私や周りの人の言動が原因だったりします。ではなぜ差別は起こるのか？なくならないのだろうか？

在米3年半の日本人としての経験をふまえて私は「差別は人が人であるかぎりおこるし、なくならない」と思います。何故なら人間は思考や感情を持つ生き物であり、時には平常心を失う場合があるからです。まずなぜ差別が起こるかを考えなくてはなりません。真つ先に思いつく理由は心が狭いからということですが、言い方をかえると受け入れられる幅が狭い人がいるからです。そういう人は相手の気持ちを考えられないため、つい有らぬ事を口に出したりします。心の狭さが差別的な行動につながっているのは、ある意味最も分かりやすいことかと思えます。

さらに心の狭さと同時に、視野の狭さも差別につながります。例をあげるとこの間、イスラム過激派組織ISISによる問題が多々あった中、日本人ジャーナリストの方も被害を受けました。この事件に対して多くの日本人は、「イスラム教」恐ろしい宗教」という考えを持ってしまいました。世界ではイスラム教に対して偏見を持ち、自分の考えを記事にする人が大勢いました。そんな中、イスラム教徒の男性からのコメントに目を奪われました。そこには「俺たちもISISは嫌いだ。あれはイスラム教じゃない。全く違う。」と書いてありました。私はこの時初めて、自分が差別という世界に入り込んでいたことに気が付きました。視野が狭い人は、「ISISが日本人を無慈悲に殺した、ISISはイスラム教らしい、ならアラブ諸国の人たちは危ない」と愚かな解を導き出します。しかし、実際はまったく違います。ISISはイスラム教から派生した一派で、しかも元々の教えから遠くかけ離れたものを信じています。知らないということでは恐ろしいことですが。

自分は「差別なんてしたことがない」という人も無意識のうちに差別しているのは僕も思います。例えば学校などで私たち日本人は中国人と間違えられることが多いと思います。海外に住む日本人の中では、一種のあるあるのようなものですね。僕もたまに中国人と混同されます。友達とこのような話題になったとき私は、よく「俺らがヨーロッパの人見ても、違いつて分かりにくいよね？パッと見であればフランス人と分かるからいいし。しようがないよ。」といいますが、実際はそんなことはどうでもよいのです。中国人と間違われて不快な思いをしたり、やけになったり、その時点で皆さんは差別者になります。残念ながら差別はいけないと言いつつ、ある時、無意識に差別してしまっている人は多いと思います。過去にあった経験で差別する人も少なくありません。たった一人や二人を見ただけで数千人、ときには1億人以上の人たちをすべて同じように見ていくわけですからおかしきですね。私の経験では観光に行った時に「中国人は礼儀がないから嫌だ」と聞いたことがあります。確かに中国人は平気で横入りしてのを見たことはありました。しかしなにか違う気がしました。私はいつも中国人を批判する人を見ると、オリエンタルマーケットで働くある中国人を思い浮かべます。その人は少なくとも私よりもずっと礼儀正しくて、人のことを考え、常に気遣いを忘れない人でした。そのため、中国人を悪く言うような言ひ方は、僕には受け入れられませんでした。

確かに国単位、政治家単位では色々あります。ですがそれを理由にその国に住んでいる人全員をひとくくりにするような言ひ方は、差別の典型だと思います。とある国の政治や、たまたま会った数人の他国人のグループを見てすべてを語るのとは間違っています。差別というのは、私たちの潜在意識が引き起こす中で表面上に現れた、とても大きな例です。私は差別がなくならないというのは、この潜在的なことが関与しているからというのが最も大きいと思います。意識しても簡単に治せないから、厄介なのです。例え将来、世界に差別がなくなつたと言われても、潜在的な部分で自分の前に境界線を引いてしまおうと思います。ですから心や視野が狭い人が世界中からいなくならない限り、差別は消えませんが。

では私たちは諦めて差別を受け入れるべきなのだろうか。確かに差別がなくならないではないでしょう。ですが私たちが心がけることで減らすことはいくつでもできます。一部を見てすべてを語らない、文化などの違いを受け入れる、相手の持つ勝手な偏見に過ぎません。この3つが我々人類に照らされた差別を減らす光だと思えます。人種差別の多くは人間の持つ勝手な偏見に過ぎません。自分が持つ常識と偏見の眼鏡をはずし、異なる文化の社会の姿を見てみると、日本が抱える社会問題や人種差別について考えるきっかけになったり、時に問題の解決の糸口が見えてくることもあります。社会問題だけでなく、個人の問題にも同じことが言えるかもしれせん。最初は自分が偏見という名の眼鏡をかけていることすら認識していませんが、異なる文化に深く触れていくうちに、その眼鏡の存在に気づき、そこでやっとな眼鏡を外して考えることができます。異文化に触れて、その目で問題を見つめ直せばきっと新たな発見があると思います。

私たちが日常的に偏見を持たず、広い視野を持ち、それを他の人にも薦めることで差別は減ると思います。

☆校長賞「あなた何型？」

一年 茂木 柚伽

「O型だよ」
「じゃあ、大雑把でおおらかで、騙されやすい性格なんだね！」
皆さんは、こんな会話を良く耳にしませんか。私も、一年前までは良く聞いた話でした。しかし、それが今びたりと無くなったのは、アメリカでの生活を始めてからです。皆さんも一度は思った事があるかと思いますが、アメリカ人の多くは自分の血液型を知りません。そんな中日本では、A型は融通が利かない真面目な人、B型はマイペースな気分屋、O型は大雑把でおおらかな人、AB型は個性的で二重人格、血液型によって性格を分類する傾向があります。これは日本特有なのですが、私はいくつものアメリカ人が存在すると思えます。

一つ目は、イメージに縛られてしまうという事です。先程言った通り、日本ではこの血液型と性格への関係性が定着しています。その為きつと日本人は、相手の血液型を聞く時、その人の性格をイメージづけてしまう傾向があります。正直、私もその一人です。しかし血液型と性格の関係性は、医学的には証明されておらず、統計学です。様々な説がありますが、血液型で性格を分類する事、また血液型占いは、七十年前には既に始まっていたと言われています。その為、私達は占いやそれぞれの血液型による性格の根拠を知らずに、勝手に信じてしまっているのです。

血液型による性格へのイメージが強いという事は、その人特有の個性を見い出せない事に繋がるとも思います。いくら血液型によって分類されている性格が正しいとしても、人にはその人しか持っていない「個性」があります。私達は血液型を聞いて性格をイメージづける事から、個性を見つけづらくしています。必ずしもB型の人やマイペースではないように、血液型を聞いて性格を理解するよりも、その人の個性を見つけてみるように接した方が良くないでしょうか。私は人に出会う時、その人だけが持っている特別なもの、個性を見つけたいと思っています。アメリカに来て、私は様々な人に出会いました。日本にいたらきつと会えなかった、素敵な仲間や友達です。

そんな個性を尊重せずに血液型によつた性格を信じていると、希薄な人間関係を築いていってしまう恐れがあるのではないのでしょうか。「個性」は、人と関わる上で大切な事です。その人の個性を正しく理解し向き合っています。濃く深い人間関係を築けるのではないかと考えています。

このようなアメリカンな考えを考えると、アメリカ人を羨ましく思いませんか。私は、人の個性を尊重出来る人間になりたいです。その為にも少なからず存在している血液型へのイメージを消し、新しく出会う人達と接していきたいと思えます。「血液型何型？」

と聞く前に、一つ、その人だけが持っている何かを、見つけてみませんか。ちなみに、私はO型です。

